

令和4年度 徳島市富田中学校 総括評価表

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
学力向上	全ての教育活動を通じて、生徒に充実感や達成感を体感させ、学ぶ意欲を喚起することができるように、教職員の指導力の向上や指導方法の工夫改善に取り組む。	評価指標 ○「めあて」「教科書」「ノート」などの表示を利用している。 ○授業の流れを明示し進捗を確認している。 ○授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。 ○チョークの色に気を配っている。	評価指標の達成度 A 39.3% B 60.7% C 0.0%	総合評定 (評定) B (所見) 全ての生徒が分かりやすい授業作りを推進するために、多くの職員研修に取り組むことで教職員の意識が高まった。 タブレットを日々持ち帰ることで、新しい形の家庭学習を実現できた。また、授業においても指導方法の幅が広がり、子どもの興味・関心を高めることにつながっている。 教員の指導スキルの向上はもちろん、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導と評価に関する研究を継続して進めていく必要がある。	◇分かりやすい授業作りに学校全体で努力している。結果は急がず努力を続けてほしい。 ◇様々な種類の教育機器を生徒の実態に応じて使い分けることができる教員となれるよう、定期的な研修を計画してほしい。 ◇学力向上に向けて、保護者と連携しておこなえるような取組を実践してほしい。 ◇基礎学力の定着が図られていない生徒への対策を学校をあげて、取り組んでほしい。 ◇タブレットの持ち帰りに関して、定着しているようで安心した。
		○ホワイトボードミーティングを取り入れるなど、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行っている。 ○定期テストなどで、記述式の設問を多く取り入れている。 ○総合的な学習の時間での学習発表会や人権意見発表会などの表現の場を工夫している。	A 35.7% B 57.1% C 7.1%		
		○デジタル教科書などの視覚教材を活用している。 ○パワーポイントなどで自作教材を作成し活用している。 ○インターネットを利用した調べ学習などに取り組んでいる。	A 39.3% B 60.7% C 0.0%		
		活動計画 ①授業の目当てや進捗を明示し、どの生徒にも授業の流れがわかりやすく振り返りがしやす、ユニバーサルデザインを意識した授業を実践する。 ②多様な意見や考えが生まれるような課題を与え、自分の思いや考えをまとめ、書いたり、表現したりする場を設ける。 ③ICT機器を効果的に活用するなど、生徒の学習への興味関心を高め、集中力の持続に繋がる授業を実践する。	活動計画の実施状況 日常的な取組で「授業がわかりやすい」という生徒の声を増やすことができた。 授業に、ホワイトボードやグループ学習等を組み入れて言語活動の充実を図った。 GIGAスクール構想を積極的に推進し、ICT機器を他のツールと有機的に繋げて効果的に活用した。		
生徒指導の充実 特別支援教育の充実	生徒理解に努め、生徒一人一人に応じた指導の充実を図るとともに、特別な支援を必要とする生徒には、きめ細かい指導体制を構築する。	評価指標 ○日本の人権獲得の歴史や、個人人権課題について正しく理解できるように指導している。 ○日常の学校生活の中で、人権を尊重する態度を身につけさせている。 ○コミュニケーション能力や、表現力の育成に取り組んでいる。	評価指標の達成度 A 60.7% B 39.3% C 0.0%	総合評定 (評定) B (所見) 本年度、文部科学省の人権教育指定校ということで、校訓の精神を生徒それぞれに理解させ、生活の中で実践できるよう学校をあげて取り組むことができた。 全ての学級において、特別支援教育の視点が活かされるよう、本年度は生徒理解に重点を置いて、組織的に取り組むことができた。 学校評価アンケートの結果から、コロナ禍の中でキャリア教育推進のためには、全ての教育活動の中で、更なる工夫が必要である	◇学校が目標としている「WITH」の精神が生徒の中にも浸透し、教職員と生徒がふれあう機会が増え、相互理解が図られている。 ◇今の富中以上を目指して、生徒指導を更に充実させてほしい。 ◇コロナ禍の中で、工夫してキャリア教育に取り組む事は素晴らしいことである。 ◇特別支援教育の充実を図ることが大切。支援学級だけでなく、全ての生徒に特別支援教育を実践してほしい。 ◇文科人研に向けての取組が、生徒の心の成長に非常に効果的であったと考える。
		○ケース会議を開いたり個別の指導計画や指導記録などを作成したりして、情報の共有化を図っている。 ○昼休みや放課後などを利用し、個に応じた補充学習を行っている。 ○日本語支援などを利用し、個の困難さに応じた指導を行っている。	A 25.0% B 71.4% C 3.6%		
		○全体計画に沿って、学校全体でキャリア教育に取り組んでいる。 ○職場体験や保育実習等の体験的な教育活動を効果的にしている。 ○あらゆる教育活動において、キャリア教育の視点を取り入れた評価・改善を行っている。	A 14.3% B 85.7% C 0.0%		
		活動計画 ①人権尊重の精神を養い、知識・技能・態度を身につけさせ、社会に出てからも差別を解消する実践力を持った生徒の育成に取り組む。 ②特別支援学級だけにとどまらず、全ての学級の生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進する。 ③生徒一人一人の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、体験的な活動を実施することにより、社会的・職業的な自立のために必要な能力や態度を育成する。	活動計画の実施状況 授業だけでなく、日々の活動や集会などでも「道徳」「人権」を考える機会を増やした。 特別支援教育コーディネーターを中心に共通理解を図り挙校体制で推進した。 年間指導計画に基づき、学年ごとに、組織的・系統的な取組を実施した。体験的な活動はコロナ禍において十分に実施できなかった。		
家庭・地域との連携協働	家庭・地域との連携を図るため、学校の取組を積極的に広報し、保護者や地域の方々の理解と協力のもと、教育活動を推進する。	評価指標 ○学年・学級便り等の各種通信、メール配信を積極的に活用し、情報発信を行っている。 ○ホームページをこまめに更新している。 ○家庭訪問や電話連絡をこまめに行い、保護者との連携を深めている。	評価指標の達成度 A 28.6% B 67.9% C 3.6%	総合評定 (評定) B (所見) 子どものことを大切に考えてくれる地域や保護者の人に対して、学校での様子をホームページや学年便りを年間通して発信することができた。	◇地域との連携を、コロナ禍においても最大限に工夫して取り組んでほしい。 ◇アフターコロナで、多くの地域行事に参加できるよう、組織的に取り組んでほしい。 ◇ふれあい健康館と連携して、生徒の作品を展示し、地域の方にみていただいている取組はすばらしい、評価できる。
		○学校教育に関する保護者や地域の方からの理解が進むよう行事を企画運営している。 ○保護者や地域の方が参加しやすくなる日程で行事を計画している。 ○学校行事の時には、保護者や地域の方と積極的に情報交換を行っている。	A 25.0% B 75.0% C 0.0%		
		活動計画 ①学校の情報を積極的に発信し、地域に学校の現状を理解していただき、開かれた学校づくりを行う。 ②各種学校行事や地域行事、学年行事において保護者や地域の方々と協力体制を築けるよう努力する。	活動計画の実施状況 学校ホームページの更新を適宜行い情報発信に努めた。 案内文書に加えてホームページ掲載やミニコミ誌への配信を実施し、周知・広報を行った。		
		○オンラインの積極的な活用や感染防止対策の徹底を図り、地域の方々と交流の機会を増やすことで、地域の方々に実情を理解していただく。その中で学校との連携を深め、子どもの成長に積極的に関わっていただくよう工夫していく。 ◇コロナ禍で疎遠になりつつあった地域の方々と（交通指導員・登下校パトロールの方等）ふれあう機会を定期的に設け、地域の方々に中学生の良さを更に知っていただく取組をおこなう。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった